

気迫で逆転!連続チャンプ!

CMSC山形

小川選手の'91シーズン

おかげさまで'91年もミラージュカップ・フレッシュマンシリーズと東北シリーズ、フォーラスカップの両シリーズでチャンピオンを獲得することができました。

フレッシュマンシリーズは、開幕戦で2位に入り、幸先き良いスタートを切ったものの、続く第2戦、第3戦で連続リタイヤ。おまけに第3戦で転倒してしまい、車は全損。ポイントもトップとは35点差と大きく離され、シーズンは終わったと思っていました。

ところが、組み上げたままでセッティングもイマ

イチの車で出場した第4戦で優勝することができ、シリーズトップとは15点差。がぜんハッスルして臨んだ最終戦は、優勝しても相手が入賞すればチャンプならずという状況の中、プレッシャーに負けずに気合いを入れ、ポールtoフィニッシュでゴール。ライバルはリタイヤしており、なんとか逆転チャンプをつかむことができました。

東北シリーズの方は開幕戦から好調で、1~3戦で3連勝。続く第4戦で2位に入り、3年連続のチャンピオンを決定しました。最終戦は欠場しようかと思いましたが、第4戦で2位だった自分に納得がいかず、優勝狙いで出場。改心の走りで見事、有終の美を飾ることができました。この最終戦では、

同じ山形の東江選手も3位で表彰台に上がり、Sリーグランキングも3位に食い込んで、万々歳でした。

'91年は、この2シリーズの他にインターナショナルシリーズやN1耐久にも何戦か出場しましたが、'92シーズンはフレッシュマンと東北シリーズは若手をどんどん起用し、自分はインターナショナルとN1耐久の両シリーズを追うつもりです。

(CMSC山形 小川日出生)



運営は抜群のチームワークで

CMSC島根

日本海チャンピオンシリーズ

10月20日 備北ハイランドパーク

秋深い10月20日、「日本海チャンピオンシリーズ」の一戦として30台のエントリーを集め、ジムカーナを主催しました。会場の備北ハイランドパークは、中国地区ジムカーナのメッカで、タイトで滑りやすいコース。幸い好天に恵まれ、ミスコースもほとんどなく、順調に競技は進むはずだったのですが、なぜか皆さん光電管への体当たりがお好き!光電管が

何度もストライキをおこしました。また、ゴール前の「鬼門」パイロンは何十回となく引きずられ、見事にパイロン寿命を全うしたのは涙なくして語れません。新型車発表会と同日だったため、少ないオフィシャルにも関わらず、殆ど故障車もなく、キチンと運営できたのは、クラブ員のチームワークの賜物と自信を深めたと思います。

最後に、三菱でもぜひ「ジムカーナ無敵マシン」を作ってください。試走車でのブッチギリのタイムを、レースで出したい!

(CMSC島根 古藤浩美)



好評のコース設定で熱戦

CMSC山形

東北ジムカーナシリーズ最終戦

10月6日 蔵王リゾート駐車場

10月6日、東北ジムカーナシリーズ最終戦を、9月にオープンしたばかりの蔵王リゾート駐車場で開催しました。CMSC山形のジムカーナ開催は3戦目となるわけですが、東北シリーズ(ダートも含めて)は初めてであり、コース設定にはかなり気を使いました。駐車場なのでパイロンコースになりがちですが、パイロンはあまり多くせず、3速全開・ジャン

ピングスポットありの高速コースを設定しました。シリーズ最終戦ということで、既にチャンピオンが決まったクラスもあり、台数的に心配されましたが、幸い96台の参加がありました。各エントリーは、今年の締めくくりと来年へのパワーアップのために、最後まで熱戦を繰り広げました。コース設定は、たいへん好評でした。

またオフィシャルに関しては、コース上のオイル清掃やコース員のトラブルなどでフル回転の競技会になってしまいましたが、次の開催に向けてのいい勉強になりました。

'91年はこれで全部終了したわけですが、ダート1回とジムカーナ2回の開催でした。'92年の同様に年3回のイベント開催と、クラブ員の多くのイベントへの参加を目標に、皆でがんばりたいと思います。

(CMSC山形 菅野 茂)

▼三菱賞第一位の黒岩選手



雨にもかかわらず熱心にアドバイスを受ける参加者▲

'91B・C地区戦にエントリーして

CMSC群馬

'91B・C地方選手権ラリー参戦記

今年よりB・C地方選手権ラリーに出場し、とてもすばらしい数々の経験をしました。仕事の関係上、全戦フルエントリーができなかったものの、7戦中6戦にエントリーし、参加しました。

クラスはAクラス。乗っているマシンは、もちろんミニカダンガンであり、私はナビゲーター、ドライバーは同じCMSC群馬の小林選手。自他共に認める最強コンビで、1年間を戦ってきました。今年を振り返ってみてわかったのは、たったひとつのミスが

勝敗を決めてしまうということ。またそれだけに、大切な場面でいかに勝負強さを発揮できるかが求められるということです。

成績の方は、第1戦のCMSC青森主催のウィンターラリー2位が最高で、あとは納得のいく成績とは言えませんでした。ダンガンは速くて安定していて、それにもましてとても丈夫なマシンであるのに、その戦闘力を生かしきれなかったことがとても残念です。

この1年に経験したことを元に、'92以降もダンガンと共により上位の成績をめざし、栄光の優勝に向かってがんばりたいと思います。最後に、1年間お

世話になったサービスの方々に始め、皆様たいへんありがとうございました。来年もよろしくお願いたします。

(CMSC群馬 金子誠司)



小林選手(左)と金子選手(右)

'91 RALLY OF MALAYSIA 参戦記

CMSC青森 大西康弘

SHELL CENTENARY RALLY CHAMPIONSHIP 1991

海外ラリー初挑戦を見事に失敗した昨年の苦しい出から、今年マレーシア選手権に参戦しましたので、ご報告します。

シリーズの名称は、SHELL CENTENARY RALLY CHAMPIONSHIP 1991といい、ラリーアートオーストラリアからR、ダンカートン、トヨタマレーシアからJ、ポートマン、フォードはイギリスの強豪M、ラベエル、シェルチームの遠藤さんなど、我がチームも含めてたくさんの強豪選手が参加。非常にやり甲斐のあるシリーズです。

車両は、昨年同様にマレーシアの国産車プロトンサガをタスカ・エンジニアリングの手によりグループSに改造したプロトン・プロトタイプ4WDを使用。チーム名はPERT(ペトロナス・イオン・レーシングチーム)。国営企業であるイオンのワークスチームで、マレーシアNo.1ドライバーのH、ヤップ、オーストラリアのトップドライバーのG、カー、そして日本からCMSCを代表して僕が参加しました。さて、2/2~3に行われた第1戦では、後半の追上げがきいて総合2位、グループSクラス1位でゴール。トップがダンカートン、2位大西、3位がチームメイトのG、カーといったオーダーで、幸先の良い出だしとなりました。

第2戦は4/27~28にマレーシアの東海岸クアンタンで行われ、非常にスリッピーな路面に悪戦苦闘。数度コースアウトするも、総合3位、クラス2位でゴール。この時点で、R、ダンカートン2連勝、僕とG、カーが2・3位を分け合い、シリーズ同点の2位。終盤の成り行き次第ではシリーズチャンピオンも狙える位置につけていました。

第3戦は6/15~16にクアラランブールの南のポート・ディクソンを起点として開催。このコースは、

例年RALLY OF MALAYSIAの2~3レグで使用されるコースのため、ラリー前のレッキは特に重点的に行って臨みました。ところが、スタートそうそうの第2レグで水たまりを走破した直後にエンジンがストール。後でわかったのですが、どうも室内にあるコンピュータBOXのコネクタに水が付いてしまったらしく、アンラッキーなトラブルでリタイアとなってしまいました。しかし、2連勝しているR、ダンカートンがフロントサスをふっ飛ばし、シリーズ同点2位のG、カーも150km/hのまま大木に激突し、ともにリタイア。僕にとっては、大きな一戦を落とした結果となりました。

8/24~27、いよいよ'91 RALLY OF MALAYSIA。これは、昨年僕が橋にフロントタイヤをヒットし、人生最大の絶望を味わったラリーですが、今年は絶対完走と、3位以内を目標に(内心は優勝)、約10日間のレッキをして本番に挑みました。アジパシということで、マツダのR、ミレンもエントリーしており厳しい戦いが予想されました。

第1レグは8ヶ所のSS、SSトータル60km、SS1の3.2kmのダートトライアルでは、2番時計、しかし続くSS2から思ったようにタイムが伸びず大苦戦。サービスで車高を前後10mmずつ下げてみたが、こんどは前車の巻き上げるホコリで何も見えず。何とか1レグをゴールしたときには、5位まで順位を下げていました。第2レグはこのラリー最長の勝負どころ。14SS、SSトータル221kmで、ハイスピードのロングステージが続きます。このステージでポジションアップを狙い、積極的にアタック。先行するミレンの車にターボトラブルが発生し、結局2位でゴールした我々が総合3位に浮上しました。ところが、クアラランブールまでの長いロードペナルティで、大渋滞のため4分のロードペナルティ。ここで登場したのが、あのラリー界の偉人、加勢選手をも操る林ナビ。さっそく競技長にかけあい、30分

後には見事にノーペナルティを勝ち取る!!この時ほど、彼が偉大に見えたことはありませんでした。

第3レグは10SS、SSトータル158km。結局、ここでは上位陣には何も起こらず、そのままゴール。優勝R、ダンカートン、2位R、ミレン、我々は総合3位。グループSクラスの優勝を果たし、インターナショナルラリーのビッグイベントを無事初走しました。完走を意識しすぎ、優勝争いができなかったものの、このラリーを通じて学んだ多くの事は、次回からのステップに役立つことと信じています。最後に、いつも温かい声援を送ってくれるCMSC青森の皆さん、ラリーを共に戦ってくれたメカニックの皆さん、石黒社長、ラリーアートの皆さん、本当にありがとうございます。CMSC青森からWRCへ!夢はまだ果てしなく続く。(CMSC青森 大西康弘)



昨年のウップンを吹き飛ばす大西選手の豪快な走り。



表彰台に立つ大西選手(左)

いよいよ大詰め、青森と山形が大接戦!

'91 CMSCチャレンジカップ

'91年のモータースポーツ活動は、いかがでしたか。満足のゆく結果を得て、表彰台へ上がった人。来年

●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	12月	合計
帯広	102	14	12		128
札幌	301	212	142		655
青森	622	814	305		1741
岩手	8	70	32		110
山形	512	461	705		1678
仙台	3	0	16		19
福島	0	0			0
栃木	22	38			60
群馬	343	226	111		680
埼玉	175	90	58		323
千葉	0	0			0
岐阜	230	147	182		559
愛知	96	20	100		216
大阪	-	140			140
島根	142	144	69		355
香川	378	346	82		806

こそはと燃えている人。マイペースを楽しんでいる人。それぞれに充実した年だったことと思います。

CMSCチャレンジカップも終盤に入り、ポイント争いが白熱してきました。CMSC青森とCMS

●ラリー・ドライバー部門

梶 沢 宏 之	青森	242
大 西 康 弘	青森	170
渡 辺 俊 昭	山形	146
福 士 文 秀	青森	108
小 林 正 夫	群馬	102
館 山 正 嗣	青森	92
佐 々 木 透	愛知	79
長 沢 太 郎	埼玉	75
坂 本 均	青森	66
上 原 力	埼玉	54

●ラリー・ナビゲーター部門

石 田 隆 雄	青森	240
今 野 泰 正	山形	122
安 田 弘 美	青森	108
金 子 誠 司	群馬	102
永 沢 裕 之	青森	80
山 崎 茂 樹	青森	66
高 柳 満	愛知	62
浅 沼 高 典	岩手	48
瀬 々 徹	埼玉	45
岩 崎 政 良	埼玉	34

●ポイントのつけ方

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位以下	タイ
ポイント	40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	0
	20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0

リタイアには予選不通過も含む

C山形がデットヒートを繰り広げ、各部門の個人タイトルも、まだまだ順位の変動がありそうです。最終結果は、2月中旬に発表します。ご期待ください。

●スラローム部門

高 竹 優 之	香川	370
櫛 田 正 文	岐阜	320
白 井 修	香川	244
荒 井 信 介	群馬	234
宝 田 芳 浩	札幌	226
鈴 木 功 敏	山形	210
小 館 久	青森	186
千 田 俊 二	札幌	168
福 士 文 秀	青森	166
近 藤 健 司	香川	152

●レース部門

小 川 日 出 生	山形	440
鈴 木 一 彦	山形	112
東 江 誠	山形	74
長 沢 太 郎	埼玉	20
瀬 在 仁 志	埼玉	18
平 井 み つ よ	埼玉	18
並 木 松 雄	栃木	15
川 口 法 行	栃木	15
本 御 勝 義	仙台	8
吉 沼 昭 彦	栃木	4

A = ラリー………全日本選手権、JMRC地区最上級シリーズ
スラローム……全日本スピード行事選手権、地方スピード行事選手権、JMRCシリーズ
レース………全日本選手権、地方選手権、ミラージュカップ
B = それ以外の競技会